平成18年「学生の意識と行動に関する調査」報告

知のキャリア形成支援委員会
チーフ学修カウンセラー　小宮　健実

1. はじめに

2006年11月、知のキャリア形成支援連絡会議（現・知のキャリア形成支援委員会）が主体となり、「学生の意識と行動に関する調査」が実施された。本報告は、その調査結果が本学のFD活動の一助となることを期待し、情報提供をするものである。

2. 調査概要

調査概要については次のとおり。設問については表1を参照されたい。

＜学生の意識と行動に関する調査＞

・対象：首都大学東京1・2年生

・期間：2006年11月13日～24日

・人数：2,610人（回収率：79.0％）

表1　「学生の意識と行動に関する調査」全設問

【学びについて】

①授業時間以外に、1日平均どのくらいの時間を勉強や研究のために個人的に費やしていますか。

②1ヶ月平均、あなたは何冊ぐらいの単行本を読みますか。専門書に限りません。ただし、雑誌やマンガは含めません。

③現在の大学での授業や実験、自習等を含めた勉強は、あなたにとって充実したものとなっていますか。※5段階尺度

④授業や課外活動その他（学外活動を含む）の場で何かを学ぶとき、自分の頭で考え、問題意識を持ち、自分なりに知識を積み上げるような能動的な姿勢で学んでいますか。※5段階尺度

⑤現在、本学以外の各種学校等で学んでいますか。（自動車免許等を除く）　1）現在学んでいる、2）これから学ぶ予定、3）すでに終了、4）予定なし

⑥前問で1）から3）と答えた方の理由をお聞きします。どのような学校に通っていますか。　1）資格･免許系、2）公務員試験対策予備校、3）専門職大学院等対策予備校、4）語学系スクール、5）その他

【学生生活について】

⑦この1週間の生活を思い出してください。どのような内容であれ、「毎日が充実している」と感じますか。※5段階尺度

⑧学生生活で何か問題点となることはありますか。あるとしたら、この中のどれですか。あてはまるものをすべて選んでください。

1）とくに感じない、2）経済的なこと、3）友人との関係、4）家族との関係、5）教員との関係、6）成績や単位、7）将来の進路、8）自分の健康、9）その他　（自由記述）

⑨学生生活で誰かに相談したいこと/困ったことはありますか。あるとしたらどなたに相談しますか。あてはまるものをすべて選んでください。

1）相談したいことは特にない、2）家族、3）友人･知人、4）教員、5）学修カウンセラー、6）就職カウンセラー、7）教務課、学生課、就職課等の職員、8）その他、9）誰に相談していいか分からない

【教員と友人について】

⑩授業や研究上のことで教員に質問したり、討議したり、相談したりしていますか。※4段階尺度

⑪授業や研究以外のことで、教員と話したり、相談したりすることがありますか。※4段階尺度

⑫大学の中に、個人的なことがらを相談できる友達は何人いますか。

⑬大学の外に、個人的なことがらを相談できる友達は何人いますか。

【進路について】

⑭学部卒業後の進路はどうしたいと考えていますか。

1）未定、2）民間医療機関・民間企業、3）公的医療機関・国家公務員・地方公務員、4）自営業・自由業、5）小・中・高の教員、6）NPO・NGO等、7）起業、8）大学院等に進学、9）留学、0）その他

⑮学部卒業後の進路について考えることがありますか。※4段階尺度

【本学について】

⑯本学のどういう点が良いと思いますか。（自由記述）

⑰本学のどういう点を改善してほしいと思いますか。（自由記述）

3. 結果と考察

・概要

表2は「学生の意識と行動に関する調査」の結果（概要）を示したものである。

表2　「学生の意識と行動に関する調査」結果

Q1 勉強時間	平均 1.28時間（1日）
Q2 読書冊数	平均 2.02冊（1ヶ月）
Q3 学習の充実感	平均値 3.06 ※①
Q4 学習への能動的姿勢	平均値 3.57 ※②
Q5 ダブルスクールの有無	学ぶ意思が無い学生が 73.3%
Q6 ダブルスクールの内容	資格免許系が 39.2% で最も多い
Q7 大学生活の充実感	平均値 3.54 ※③
Q8 大学生活の問題点（複数回答）	将来の進路･･･52.8%, 成績や単位･･･45.0%, 経済的なこと･･･29.8%, 友人との関係･･･19.1%
Q9 大学生活の不安の相談相手（複数回答）	友人知人 50.3%, 不安無し 29.4% 家族 25.0%, 誰に相談するかわからない 6.9%, 教員 6.2%
Q10 教員との相談（学習）	常に･時々･たまに　合計 51.4%
Q11 教員との相談（大学生活）	よく･時々　合計 17.7%
Q12 学内の友人数	3.65人
Q13 学外の友人数	4.43人

Q14 学部卒業後の進路の希望	民間企業 27.3%, 未定 24..5%, 大学院進学 24.4%, 公務員 19.0%
Q15 学部卒業後の進路への意識	平均値 2.97※④
【注】※①③充実している：5～どちらかと言えば充実している：4～どちらとも言えない：3～どちらかと言えば充実していない：2～していない：1として数値化した平均値 ※②能動的だと思う：5～どちらかと言えばそう思う：4～どちらとも言えない：3～どちらかと言えばそう思わない：2～そう思わない：1として数値化した平均値 ※④よくある：4～時々ある：3～ほとんどない：2～全くない：1として数値化した平均値	

Q3「学習の充実感」Q4「学習に関する能動的姿勢」Q7「大学生活の充実感」についての回答を見ると、平均値が3を上回っており,意欲的に学習に取り組み、学習及び大学生活において充実感を感じている学生の方が多いことがわかる。Q8「大学生活の問題点」では、低学年ながら将来への不安を半数以上が持っていること、同じく成績や単位に関しても半数近くが不安を感じていること、約3割が経済的な問題を抱えていることがわかる。また、Q9「大学生活の不安の相談相手」では、将来や成績に関する不安が多いにも関わらず、最も相談すべき教員よりも友人が多いことが示された。Q10・Q11「教員との相談（学習・大学生活）」では、基礎ゼミナールなど少人数制の基礎教育科目や、各学部・学系のガイダンス及びそれぞれの少人数制の授業が奏功して、半数以上の学生が学習相談をしていることが示されている。Q12・Q13「友人数（学内・学外）」では高校時代などの友人の方がまだ多いことが示された。これは、アンケートの対象が低年次の学生だからと考える。

・因子の抽出と因子間の関連の分析

以上の設問の中で、教員とのコミュニケーションが学習や大学生活に影響しているのかを明らかにするために、教員との相談に関する設問（Q10・Q 11）と、学習に関わる設問（Q1～Q4）、及び大学生活に関わる設問（Q7）との関連を分析した。さらに、教員とのコミュニケーションが有意であることを比較するために、アンケート結果で示された最も多い相談相手である「友人」に関する設問（Q12・Q 13）との関連を分析した。

まず因子分析を行い,抽出された4因子に対して、以下のように命名した。

・因子1【教育相談】
・因子2【友達関係】
・因子3【大学生活の満足度】
・因子4【学習意欲】

結果、因子1と因子3および、因子1と因子4および、因子3と因子4に、弱～中程度の相関が認められた。逆に因子1と因子2および、因子2と因子4には相関が認められず、また、因子2と因子3にもあまり相関が認められなかった。以上の結果より、友人とのコミュニケーションは大学の満足度にあまり関連していないが、教員とのコミュニケーションは学習意欲と、大学の満足度とに関連していることが推察された。

・因子間の因果関係の分析

上述の因子間相関の結果から、さらに因子間の因果関係を検証するため、共分散構造分析を行った。図1はその最終モデルである。

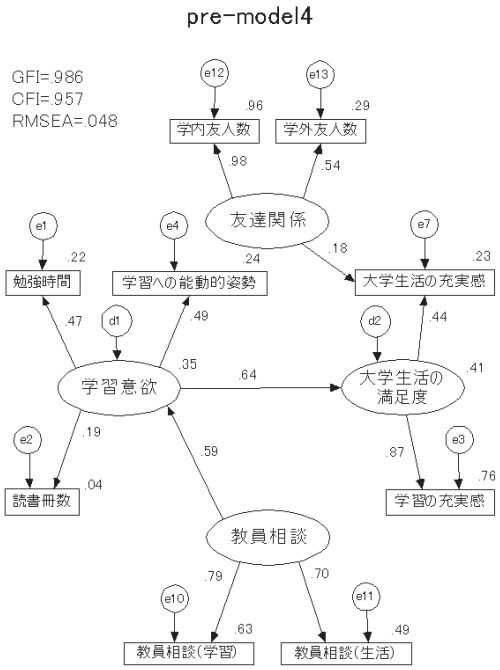

図1　4因子間の共分散構造分析（最終モデル）

共分散構造分析の結果、「教育相談」から「学習意欲」へ有意なパスが引かれたため、教員との「教育相談」が多くなると「学習意欲」が高くなることが示唆された。また「学習意欲」から「大学生活の満足度」へも有意なパスが引かれたため、「学習意欲」が高まれば、「大学生活の満足度」も高まることが示唆され、更にその「学習意欲」を高める要因である「教育相談」の存在が明らかになった。逆に、「友人関係」は「大学生活の満足度」にあまり影響を与えていなく、「学習意欲」にはあまり関連がないことが示唆された。

ここに、「教員とのコミュニケーション」が、学生の学習意欲及び大学生活の満足の鍵を握っていることが示されたことになる。学生と教員とのコミュニケーションの活性化について今後も検討されていくことが期待される。